

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 3月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070400450
法人名	有限会社 グループホーム よろずのさと
事業所名	グループホーム よろずのさと
所在地	伊勢崎市美茂呂町3973-3 (電話) 0270-21-8868

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年2月16日

## 【情報提供票より】(平成21年 1月 19日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 13年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人 非常勤 3人 常勤換算 6.8人	

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	療管理費 日用品費 レクリエーション代	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円

### (4)利用者の概要( 1月 19日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	石原医院 ・ 鈴木歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主要道路と大型スーパーが隣接した住宅地の中に位置し、小学校が近いことから、通学途中の小学生がホームの庭先のベンチを利用することがごく当たり前になっていて、ホームがその地域に溶け込んでいる様子が窺える。ごく自然に当たり前の生活を送ることを目標として、施設長をはじめ職員達が共有する理念のもと、その人らしさを大切にされたケアを実施している。日常的な散歩や外食、家族を交えての年一回の一泊旅行等、ホームに閉じこもることなく生活に潤いを持たせた支援が積極的に行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスとして地域とのかかわりを重要視した取り組みについて、運営推進会議の活用や地域行事への参加など地域とのかかわりを持つよう努力しているが、近隣住民との接点が見出せず継続して課題となっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、管理者一人が記入している。前回の評価について、玄関に評価結果が置いてあり、職員はそれに目を通すこととなっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回実施され、家族・市職員・民生委員・区長・職員が参加し、ホームの状況報告や地域との関わり方等について話し合いを行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を置いている。また、家族の来所時にはお茶をいれ、和やかな雰囲気の中、意見を言いやすい雰囲気となるよう努めている。一泊旅行を通じて意見交換を行うなどの取り組みも実施されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者の方が参加できるような行事には、なるべく参加できるようにしている。しかし近隣住民との日常的な関わりについては、近隣住民の多くが日中時間帯留守である等、関わりを持つ機会が持てずにいる。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしさ、尊厳を大切にし、加えて地域の中で暮らし続けることを目的とした理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議の中で理念について話し合っている。また、各職員とも理念を理解し、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り等、入居者の状況に合わせて参加している。	○	参加している行事が限られている。地域の一員として、老人会や地元住民との交流、また、参加するだけでなく地域住民のホーム招待等、積極的な交流が図られることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については管理者一人が記入している。前回の評価について、玄関に評価結果が置いてある。	○	自己評価については職員と共に取り組み職員の共通認識やケアの振り返りを行い、外部評価では会議等で話し合い、改善点を明確化することが望まれる。外部評価を活かした、よりよいケアの実践を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、平日の日中に開催している。市職員・区長・民生委員・家族・ホーム職員が出席している。内容が状況報告など限られたものになってしまっている。	○	地域との関わりを深め、地域との交流を図る機会とし、ホームの地域化に向けた話し合いも行われる場になることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口には、パンフレットを置いてもらっている。月1回以上は市の窓口へ相談に行ったり、手続き等に出向き、その際に不足しているパンフレットを補充したり、ホームの空き状況等を報告し、サービス提供等に関する助言を仰いでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、一人ひとり写真入りの報告書を作成し、家族宛に送付している。また、来所時には声をかけ、近況報告をしている。その他、状態変化時には随時連絡・報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いている。また、来所時にはお茶をいれ、和やかな雰囲気の中、意見を言いやすい雰囲気となるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、なるべく異動や離職がないよう働く環境に配慮しており、万が一離職等生じた場合には、入居者への心配りを職員と共に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については職員事務所に研修内容を貼り出し、希望する職員には勤務として参加できるよう支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームの職員と交換交流を行い、情報交換・質の向上へと努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居待ちの方には併設のデイサービスを利用していたり、入居前には本人・家族に必ず見学に来ていただき、雰囲気の確認をもらったうえでサービスの開始へ移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の個性を尊重し、一緒にできることは行い、喜怒哀楽を共有しながら、支えあう関係となるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の聞き取り、生活上の会話の中で、入居者一人ひとりの暮らし方や思い・意向の把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者は、本人・家族にはアセスメントの中で聞き取りを行い、職員とは会議の中で意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月全員分のモニタリングを会議で行っている。6ヶ月に一度は評価をしている。状況等に変化があった場合は、その都度話し合いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設し、入居だけではない地域の中で暮らしが続けられるよう支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を受診できるように支援している。また、協力医には何かと相談・助言を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の悪化時には家族に説明を行い、話し合いをしている。家族が望めば終末期の対応を検討中である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録の記入及び保管については事務所にて行われ、他者の目に触れることはない。また言葉かけも優しく丁寧である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を聞くようにしている。また、その日の体調や気分を考慮し、入居者一人ひとりのペースを大切にした支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルのセッティング・片付けなどを一緒に行っている。また、食事は職員も同じテーブルに着き、一緒に食べながら会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金の週3回、午後3時半から入浴を行っている。入浴時間の長さは、希望を優先している。失禁等で汚れてしまった場合や汗をかいてしまった時は、その都度シャワー浴も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干す、畳む、片付けるなど、その人の能力に応じた役割を持ち、日々張りのある生活ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩・外食・外出・年1回の一泊旅行などホームに閉じこもることなく、ストレスの溜まらないよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけていない。また、出入りの際はチャイムが鳴るように工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	区長・民生委員には運営推進会議の際に呼びかけ、協力を仰いでいる。	○	組合の方や近隣の方にも参加・協力していただけるような働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量をチェックしている。咀嚼・嚥下の悪い入居者でもきちんと摂取できるよう、食材を細かく刻むなどの工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節感を取り入れた手作りの掲示物がさりげなく飾られ、廊下には思い出の写真が凝ったレイアウトで飾られている。不快な音などもなく居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持込に制限はなく、仏壇・テレビ・使い慣れた布団などその人のそれまでの人生を感じられ、また趣味のものが置かれていたり、居心地良く過ごせるよう配慮されている。		